

教師主導の音声指導を支援するウェブサイトの構築

邊姫京（国際教養大学）、柳澤絵美（明治大学）

Development of a website that supports teacher-driven Japanese pronunciation teaching

Hi-Gyung BYUN, Akita International University Emi YANAGISAWA, Meiji University

要旨：日本語音声が学べる無料サイト「JP ラボ」（www.jp-lab.com）を開発した。表向きは学習者向けであるが、教師用コンテンツにも力を入れており、教師を強力にサポートし、気軽に音声指導に取り組める環境の整備を目指している。ネイティブ、ノンネイティブ教師を問わず、音声学の知識がなくても指導ができるように、「教師用」コーナーでは教師用スライドと学生用 PDF をダウンロードしてそのまま使えるようにした。また、「教師の部屋」では授業で使えるアイデアや指導項目の理解を深めるための情報を提供している。「JP ラボ」は進化形であり、教師の要望に応じて今後も改善・改良していく予定である。

キーワード：音声指導、教師主導、教材提供、無料ウェブサイト

1. 学習者が望む音声指導とは

近年日本語学習者のための、無料で使える自律型ウェブサイトが多く提供されている。「JP ラボ」（日本語発音ラボ、www.jp-lab.com）もその一つで、インターネット環境があれば、だれでも利用できる。2021年8月のオープン以来、コンテンツを拡充しながら改善・改良を重ねてきている。表向きは学習者向けであるが、教師用コンテンツにも力を入れており、教師を強力にサポートし、気軽に音声指導に取り組める環境の整備を目指している。

日本語音声に関心がある学習者の最終目標は、多くの場合、ネイティブとの円滑なコミュニケーションであろう。様々な機能を備えたサイトが無料で使えるのはありがたいことではあるが、学習者は終始機械を相手にした学習ではなく、可能であれば生身の教師の指導を希望する。学習者は、自身の発音が標準的な発音と比較してどのように異なっているのかについて具体的な指導を望んでおり（松崎 2009、楊 2011）、機械を相手に練習をし、機械に「よい」と言われても、最終的には教師の「よい」がもらいたいのである。

2. JP ラボを使った音声指導

教育現場の教師であればだれもが実感することであるが、カリキュラムに音声科目が組み込まれていない限り、通常の授業で音声を取り上げるのは時間的制約などで容易なことではない。自習用プログラムなどを活用した自律学習が推奨されるのはそのためであろう。「JP ラボ」も自律学習を前提にした学習者向けのプログラムを提供している。ただし、

自律学習は、教師が介入しない学習者任せの学習を意味するわけではない。「JP ラボ」では教師のプレゼンスを高める教師主導の音声指導を実現するために、必要な教材と指導法を提供している。各項目には「教師用」コーナーがあり、説明に必要なスライドはダウンロードして教室ですぐに使い、学生用 PDF も印刷して使用することができる。教師用スライドは、音声学の知識を前提にしないシンプルでやさしい説明、音声付き聞き分け練習、語レベル・文レベルの発音練習で構成されている。教師がスライドを使って音声項目について説明をした後、聞き分けの練習と発音練習をするという流れである。全部で5分程度を想定しているが、5分を超えそうな場合は学習者に各自サイトに行って復習するように誘導すればよい。ポイントは、音声指導を教師がリードする教師主導にすることである。

学習者に自律学習を促した後はそのまま放置するのではなく、できるだけ進捗状況を確認するようにしたい。サイトには「課題」コーナーがあり、それを利用して学習者の進み具合を確認することができる。課題を確認した後はフィードバックを行うことも考えられる。教師は、教師の一言で大きく伸びる学習者がいることを知っている。フィードバックはそのためにも有効であろう。もし教師自身が日本語音声に不安を感じているのであれば、音声指導を開始する前にサイトを利用して先に内容を熟知してから臨むとよいだろう。

3. JP ラボの構成と教師のためのコンテンツ

JP ラボの製作上の方針や学習者用の使い方の詳細についてはすでに報告している(邊・柳澤 2022、柳澤・邊 2023)。したがって、ここではサイトの構成についてごく簡単に述べてから、教師向けのコンテンツである「教師の部屋」について紹介する。

3.1 JP ラボの構成

図1にサイトのホーム画面、表1にコンテンツの一覧を示す。サイトは誰でも利用可能であるが、教師向けの「教師用」と「教師の部屋」にアクセスするにはパスワードが要る。パスワードは右上にあるログインバーから「新規登録」をすると自動で送られてくる。

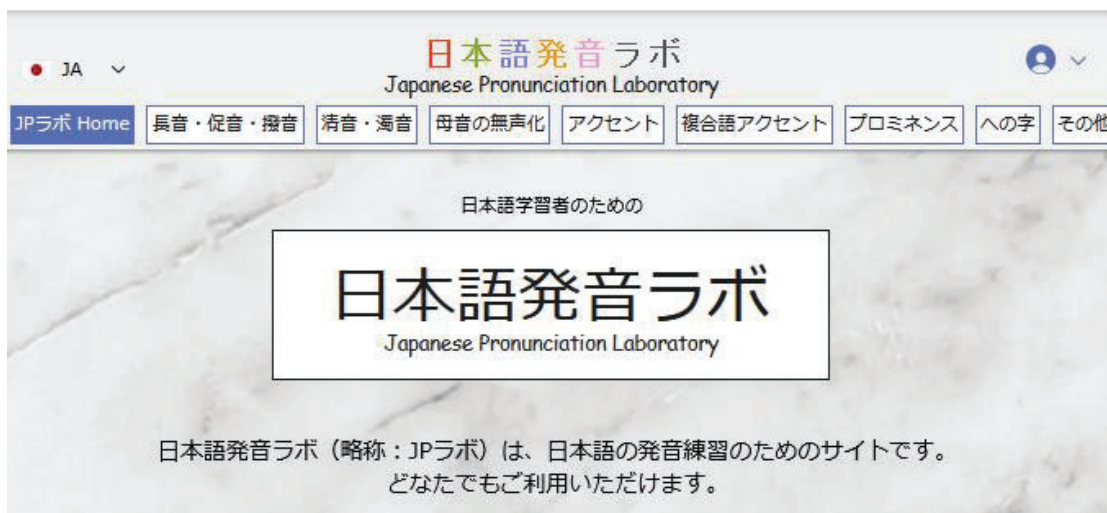


図1: JP ラボのホーム画面

表 1：JP ラボのコンテンツ一覧

JP ラボ Home	特殊拍	清濁	無声化	アクセント	複合語ア	プロミネンス	への字	その他
教師の方へ	説明	説明	説明	説明	説明	説明	説明	ツの発音
教師の部屋	練習	練習	練習	練習	練習	練習	練習	ラ行の発音
コメント欄	練習 2	練習 2	課題	課題	課題	課題		拗音直音
制作チーム	課題	課題	教師用	教師用	教師用			ザ行ジャ行
	教師用	教師用						

表 1 に示したように「課題」と「教師用」が含まれていない項目もある。「その他」にも「課題」と「教師用」は含まれていない。上記のうち教師専用コンテンツは「教師の方へ」「教師の部屋」「教師用」である。「教師の方へ」はサイトの使い方に関する説明、「教師の部屋」は教室で使える資料やアイデア、「教師用」は上述したように指導用スライドを提供している。次節では、「教師の部屋」について詳しく説明する。

2.2 教師のためのコンテンツ「教師の部屋」

図 2 に示したように、2023 年 6 月現在「教師の部屋」には 8 項目が公開されている。

- (1) 教師用スライド：各項目の「教師用」で提供している教師用スライドと学生用 PDF を一か所に集めたものである。スライドにはアニメーションが施されており、そのまま使用することを想定しているが、内容がクラスのレベルに合わない場合は加工して使用してもよい。スライドの「ノート」にも使い方の説明がある。
- (2) 5分キットの使い方：「教師用」で提供している教師用スライドを「5分キット」と呼んでおり、ここではこの5分キットの使い方を説明している。項目によっては時間があるときに試してほしい教室活動も提案している。
- (3) 協働学習：教師の説明の後、自習用の「練習」部分を教室で行う例を紹介している。一連の活動には1時間以上かかると予想されるが、使いたい部分を選択して利用することも可能である。
- (4) メニューの音声項目：音声の何を、どこまで教えればいいのかについて説明したものである。

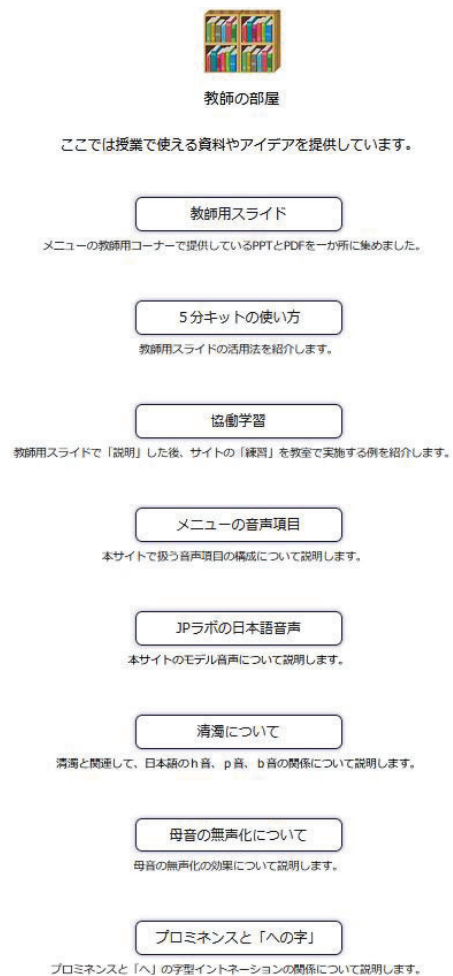


図 2：教師の部屋

- 「特殊拍」「清濁」「その他」は日本語音声の「正確さ」に関わる項目で、間違えるとコミュニケーションに支障が出るため修正が必要であるが、それ以外の「自然さ」に関わる「無声化」「アクセント」「プロミネンス」「への字」型イントネーションについては、ネイティブのような自然な日本語音声の習得を目指す学習者でなければ修正は不要であろう。
- (5) JP ラボの日本語音声：サイトでは多くのモデル音声を提供している。共通語音声の特徴とされる「東京式アクセント」「母音の無声化」「鼻濁音」のうち、「アクセント」は複数のアクセント型があり得ること、「無声化」のルールは最小限にしていること、「鼻濁音」は衰退傾向が顕著であり、指導の有無は教師自身で判断してもよいことを述べている。
- (6) 清濁について：サイトにある学習者向けの説明と教師用スライドの内容が少し異なるため、その理由を説明している。学習者用は日本語のノンネイティブの観点から、教師用はネイティブの観点から清濁を説明しており、清音・濁音の対立と無声音・有声音の対立の違いについて解説している。
- (7) 母音の無声化について：母音の無声化によるプラスの効果について説明している。
- (8) プロミネンスと「への字」：一見関係のなさそうな「プロミネンス」と「への字」型イントネーションが「効果的な伝え方」という同じ機能を果たしていることを述べている。

4. コンテンツの多言語化と今後

現在、学習者向けに日本語版と韓国語版が公開されている。今後英語版と中国語版を公開する予定であるが、他の言語についても検討中である。教師のための「教師用」「教師の部屋」は日本語版のみであるが、「教師の部屋」については多言語化を計画している。

「JP ラボ」は運用開始から日が浅く、コンテンツの有効性についてはこれから検証していく予定である。学習者を対象にした検証には一定の時間を要するだろう。教師の方を対象にした検証も必要であるが、もし個別にサイトを使用してみて改善してほしい点や要望などがあれば「コメント欄」から意見が送れるので、ぜひ活用していただきたい。

謝辞 本研究は JSPS 科研費 22K00648 の助成を受けたものです。

参考文献

- 邊姫京・柳澤絵美. 2022. 「学習者本位の日本語音声学習ツールの開発」『日本音声学会第36回全国大会予稿集』133–138.
- 松崎寛. 2009. 「日本語教育における教師と学習者の内省—韻律指導の実践をもとに—」『日本語教育』142: 25–35.
- 楊帆. 2011. 「教師の訂正方法と授業参加者の意識—中国の大学における日本語授業の場合」『山形大学紀要（教育科学）』15(2): 225–241.
- 柳澤絵美・邊姫京. 2023. 「学習者の自律的な発音学習を支援するサイト「日本語発音ラボ（JP ラボ）」の開発」『日本教育工学会 2023 年春季全国大会講演論文集』301–302.